

羽田裕貴さんが茨城大学学長学術特別表彰を受賞

地質情報研究部門平野地質研究グループの羽田裕貴さん（産総研特別研究員）が、茨城大学学長学術特別表彰を受賞いたしました。この表彰は、茨城大学における「ノーベル賞，文化勲章，日本学士院賞，紫綬褒章，文部科学大臣表彰（科学技術特別賞）等に準ずる極めて顕著な研究遂行に極めて重要な役割を果たしたと認められる研究グループの研究者」に贈られるもので，表彰制度裁定以来初めての特別表彰です。今回認められたのは，チバニアン（GSSP: Global Boundary Stratotype Section and Point：国際境界模式層断面とポイント）認定に係る功績で，受賞者は羽田さんと，岡田 誠さん（茨城大学大学院理工学研究科）と菅沼悠介さん（国立極地研究所）の3名です。羽田さんと菅沼さんは茨城大学の岡田研究室の出身です。この3名は国内外の23機関35名からなる千葉セクションGSSP提案チームの中心人物です。

千葉県市原市田淵を流れる養老川沿いに，前期更新世と中期更新世の境界が含まれる^{かづさ}上総層群^{こくもと}本層が露出する地層の崖「千葉セクション」があります。羽田さんたちはこの地層について，古地磁気層序，微化石層序，火山灰層序などいくつかの層序学的手法を用いて，前期更新世と中期更新世の境界である松山逆磁極期とブルン正磁極期の境界付近を高解像度の目盛りで刻むことで，この地層が前期更新世と中期更新世の境界として世界で最も典型的に示す地層であることを明らかにしました。地磁気が逆転した層準の約1 m 下位には，噴出年代が77.3 ± 0.7 万年前と測定された^{びやくび}白尾火山灰層が見られ，羽田さんたちの有孔虫化石を使った酸素同位体比の研究から，白尾火山灰層の年代が77.4 万年前になることが明らかとなりました。国際地質連合（IUGS）は2020年1月に羽田さんたちの研究を認めた上で，千葉セクションを下部更新統-中部更新統境界GSSPとして認定し，この境界より上位の地層の地質年代/年代層序単元（期/階）に対して“チバニアン”と名付けました。この認定まで最初の提案から2年以上も経過しましたが，千葉セクションGSSP提案チームだけでなく自治体や市民など多くの方のご協力があったからこそその認定となりました。

羽田さんは現在，「沿岸域の地質・活断層調査」に第四紀地質の専門家として携わっており，現在進行中の紀伊水道沿岸域の地質調査に取り組んでいます。今後の羽田さんの研究の飛躍を大いに期待しています。

（地質情報研究部門 中島 礼）



表彰式の様子。左から羽田裕貴氏，岡田 誠氏，太田寛行茨城大学学長，菅沼悠介氏。写真は茨城大学広報室提供。